

雪崩対策で観光・物流路線の通行を確保

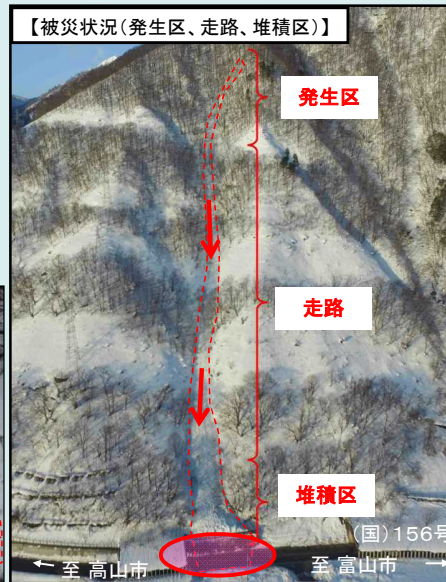
被害状況と対策内容

- 平成29年2月に一般国道において**雪崩が発生**し、**10日間の全面通行止め**を実施。
- 世界遺産白川郷への観光道路であるとともに、危険物積載車両の通行する物流路線。
- 推進費を活用して緊急的に**スノーシェッドによる雪崩対策を実施**。

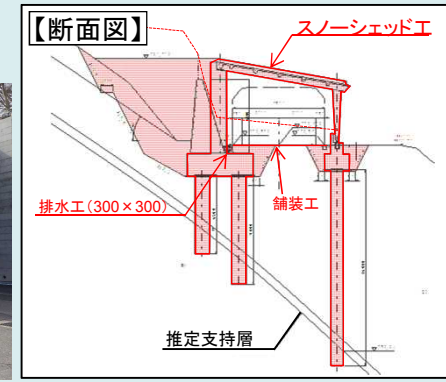
（地区名）一般国道156号（岐阜県大野郡白川村）
 （事業名）道路更新防災等対策事業
 （事業実施主体）岐阜県
 （事業費：2.2億円(国費1.1億円)）

地区概要：本路線は、第1次緊急輸送道路に位置付けられているとともに、世界遺産白川郷へのアクセスルート。併走する東海北陸自動車道の飛騨トンネル（危険物積載車両通行禁止区間）の代替路線としての機能も持つ。

おおの しらかわ



【対策内容】スノーシェッド工 L=4.2m、舗装工ほか附帯施設



効果

- 早期の対策で再度災害防止が図られ、**冬季の当該区間における通行を確保**。

当箇所は平成29年2月の**雪崩発生を受けて**、雪崩が発生する恐れがある場合は通行止とする、**新たな事前通行規制基準を設けた**。



早期の対策で次期降雪シーズンまでに再度災害防止が図られるとともに、**対策完了後**、有識者を含めた「国道156号雪崩対策検討会」を開催して**通行規制基準を解除し、当該区間における冬季の通行を確保**することができた。